

各教室、近況報告を中心に情報交換型の勉強会を開催

令和四年の十一月十七日（木）十三時より約二時間、育脳寺子屋のズーム勉強会を開催しました。今回は京都、滋賀県、兵庫県、岡山県、富山県と様々なエリアの先生方にご参加頂きました。

コロナ禍が始まったのが令和二年の一月。それまでは毎年、年に二回ほどは勉強会を行っておりましたが、その後はなかなか開催できずにおりました。

第七波がおさまり、勉強会を再開しようかと画策していましたが、最近はまだ陽性者数が増加傾向にあるのでリアルでの勉強会は断念。今回は初めてズームでの勉強会となりました。

勉強会は二部制にし、第一部は各教室の近況報告をしていきました。

やはりコロナの影響は大きいと感じられている先生が多いようで、特に最初の一年は対応が大変だったようです。

本部教室もコロナ禍になってから色々な変化を感じるが増えました。

ありがたいことに「口コミ」「紹介」での入塾は一定数はあるのですが、「ちよっと気になって」というような気軽な体験が極端に減ったように感じます。あとは、本人も楽しんで通えているものの、家庭の事情での退塾もいづらかありました。

その背景にはコロナ禍の影響を受け、今まで専業主婦だったが共働きになり送り迎えができなくなった、送り迎えを頼んでいた祖父母は持病を持っているので送り迎えを頼むのが怖い・など、幼児や小学生の低学年を中心に集客している教室ならではの理由ですが、今まではあまり無かったケースでの退塾がありました。

第二部では本部の用意したレジュメを中心に今の学習塾業界全体の話、その後我々のような地域密着塾が今後どのように生き残っていくか・というテーマで話をしました。

今までは「一生懸命指導します！」で生徒が集まった時代ですが、これからはそれだけでは生徒が集まらない

時代へ突入します。それは保護者さんが「今、このタイミングでこの教室に通う意味はあるのか？」ということを含め、今までも、よりシビアに考えられるようになるからなのです。

勉強会資料として添付した「自塾の再発見シート」や「奇跡のリンゴ」のような自塾のストーリーをぜひ書き出してみてください。そこに生き残りのヒントがちりばめられていると思います。

～zoom meeting～



念のため、写真には加工を施しております。